

第3回オンライン授業に関するJMOC ワークショップ



オンライン授業の手探りロードマップ



2020年6月20日
帝京大学高等教育開発センター主任
教育方法研究支援室室長
准教授 宮原俊之



オンライン授業の実践から見えてきたこと

- 緊急事態のオンライン授業。何が重要だった？
 - 当初の予定どおり行おうと無理をしない。
 - シラバスの呪縛の功罪。
 - オンライン授業の専門家は一日にしてならず。
 - 大切なのは、学生の学びを止めないこと。
 - 目標に向かって学生の学びを押し進めること。
- これからを考えると組織的な支援体制が必要
 - これからは、適切な方法を選択することが重要となる。
 - そのための支援が重要。

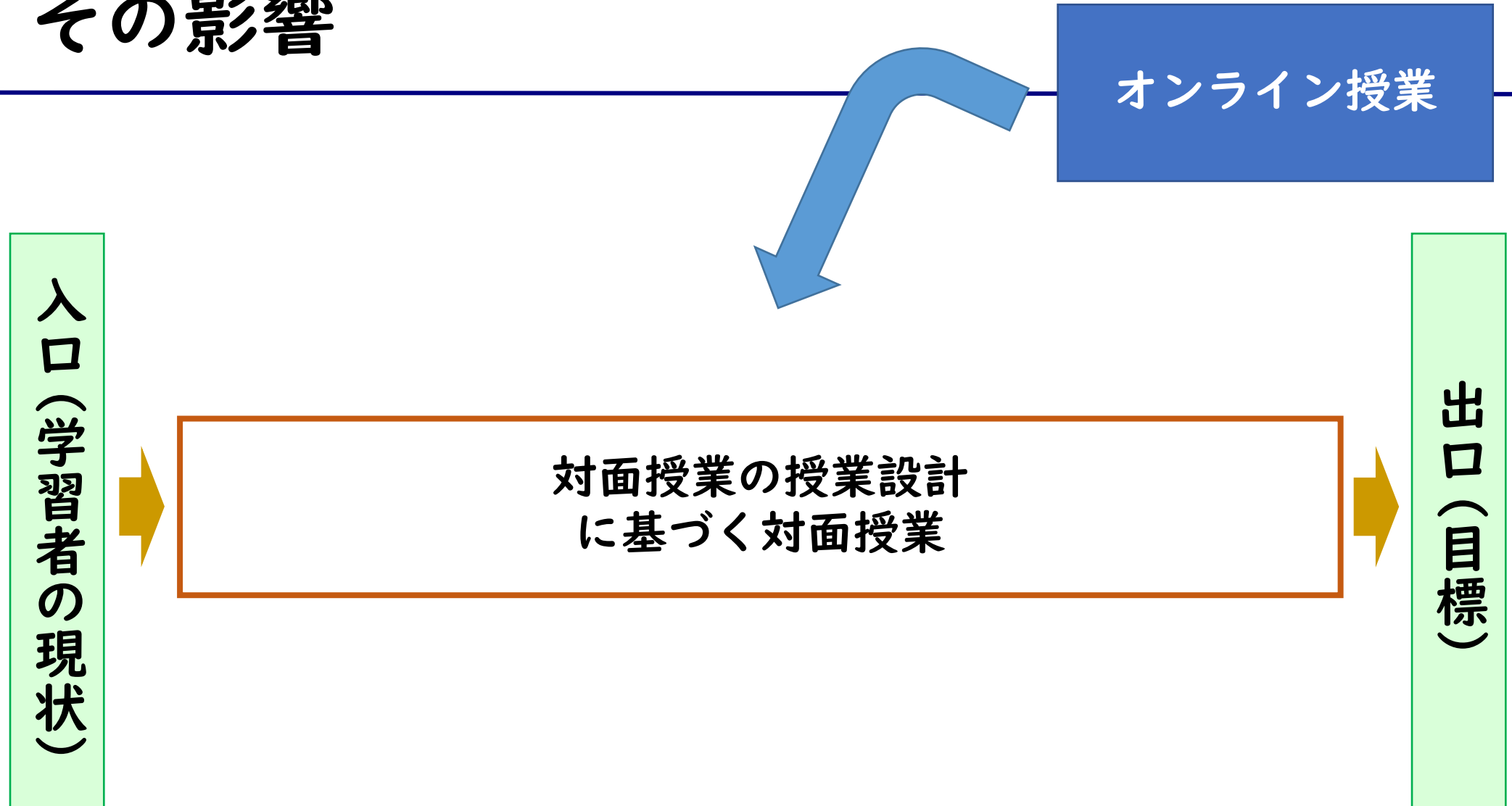


シラバスの呪縛

- 今回、急遽オンライン授業実施となったにもかかわらず、多くの大学でシラバスの修正を許していない（履修登録前であっても）。
一部の大学では、原文を残したまま、追記としての記述は認めていた。
- 制度の中で生きる大学であることは十分に承知するところではあるが、誰のためのシラバスかを考えたい。
- このことで、潜在的な意識も含めて、対面授業で予定していたことからオンライン授業でどう行うかを考え授業設計した教員も多かったように思う。

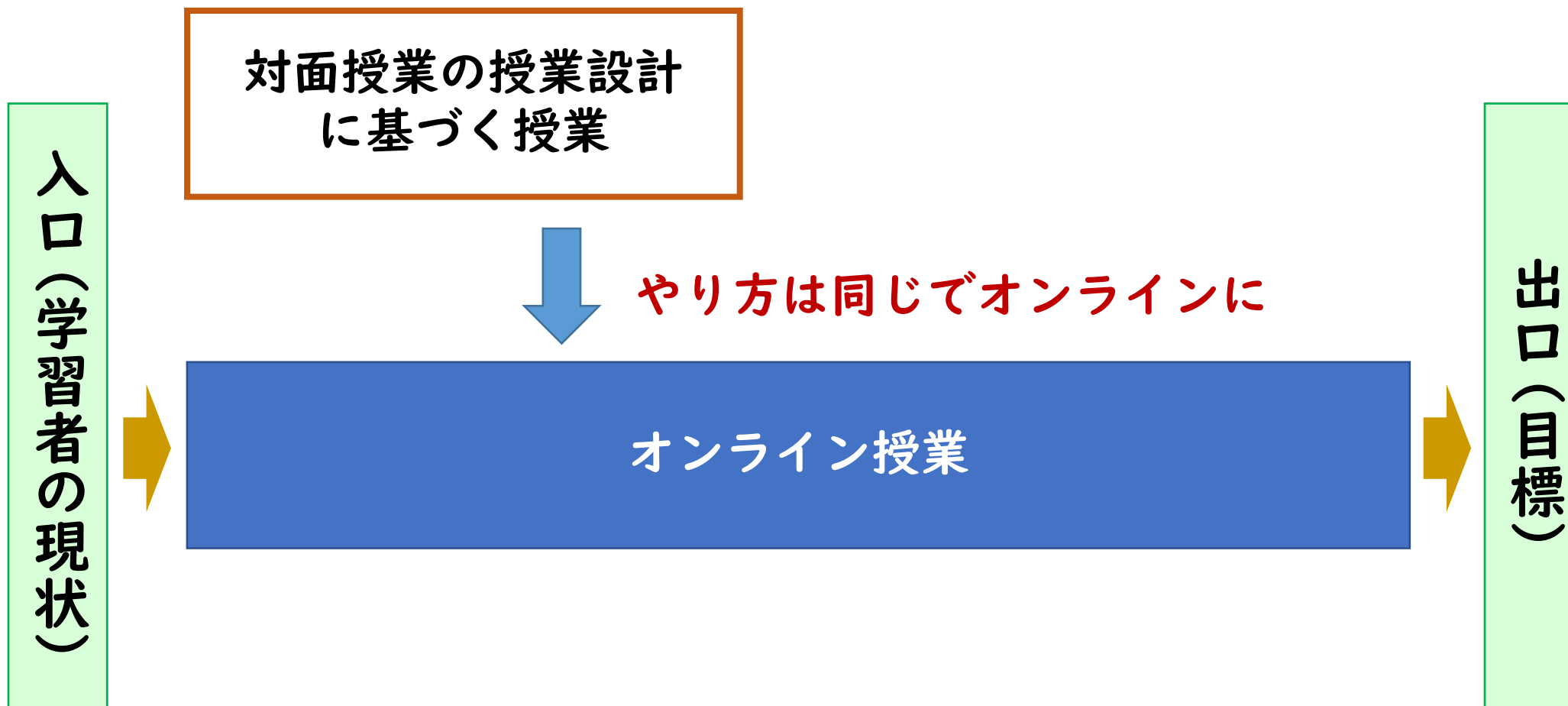


その影響





その影響





その影響





手探りロードマップ

- 手探りになったワケ (八王子キャンパスの話)
 - メディア授業の実績はない。つまりは、大学として、すべてが未経験。
 - 補講では2019年度からeラーニングが認められるようになったが実績ゼロ。
 - 対面授業の自動収録は50本 / 半期の実績はあるが・・・
- そのため基本的には対面授業という方向性。
 - 状況を見定めるためにも基本的には2週間前に次の2週間どうするかを決める。



手探りロードマップ（準備編）

- **すぐに決まったこと**
 - **LMSの活用。LMSは、BlackBoardが全学導入済み。
ただし、これまでの実際の利用者は約2割程度。**
 - **教務主催のLMS講習会実施（対面、動画）：**
 - 対面は多い回で50名程度の出席者。
 - **高い危機感。**
 - **この時点で危機感のない教員が問題なわけですが・・・。**



手探りロードマップ（準備から実施へ）

- 段階を追いながら決めたこと
 - コンテンツの形式（いわゆる制約事項）
 - (1) 学生の学修環境、(2) 大学のインフラ環境、(3) 教員個々の対応可否を踏まえて。科目の性質や授業内容はその次・・・。
 - 学びを止めないためには仕方ない判断。
 - 支援体制
 - 各学部学科センターから選出されたオンライン授業連絡教員
 - 各組織内でのとりまとめが期待されたが機能しなかった。
 - 自分のことだけでも精一杯。
 - 教務の負担は増大の一途へ。



手探りロードマップ（実践編）

- コンテンツ形式とそれによつた支援（全般にわたる支援については後述）

第1週（5/11～）から第3週まで（～5/29）

- 音声ファイル（mp3）＋PDF等授業ファイル
 - **学生の学修環境を優先。**
 - 説明文書配布、LMS講習会にてレクチャー。
 - コンテンツの中身（授業を作る）についてのアドバイスも説明文書に掲載。
 - 動画不可、ZOOM等不可。



手探りロードマップ（実践編）

- コンテンツ形式とそれに関わる支援（全般にわたる支援については後述）

第4週（6/1～）から

□ 動画を解禁

- **学生支援緊急給付金の給付が行われたため。**
- コンテンツの中身（授業を作る）についてのアドバイスも説明文書に掲載。
- ZOOM等リアル配信については引き続き不可。
（6/8から対面授業実施予定と大学のインフラ環境による）



手探りロードマップ（実践編）

- コンテンツ形式とそれに関わる支援（全般にわたる支援については後述）

第5週（6/8～）から

- ZOOM等リアル配信を解禁
 - 一部科目の対面授業が開始。
 - 大学のインフラ環境の問題と学生の居場所が課題。

第6週（6/15～）から

- 対面授業でもオンライン授業を
 - 履修者50人以下科目の対面授業が開始。
 - 大学の通学できない学生の対応が課題。



手探りロードマップ（実践編）

- オンライン授業全般にわたる支援
 - 全般（学生、教員とも）
 - 教務グループがメール&電話にて対応
 - 数が多すぎてすべての質問に回答できない。
 - Webページを開設しFAQ形式で情報提供。
 - 著作権、オンライン授業の専門家（教員）が協力。
 - LMS（学生、教員とも）
 - ICTサポートデスクが対応
 - ICTサポートデスクの存在を知らずに教務グループへの問い合わせも多数あった模様。



手探りロードマップ（実践編）

- オンライン授業全般にわたる支援
 - 学修支援（学生）
 - 学習支援デスクのピアサポーターによる相談対応
 - GoogleMeetを使用したピアチューティング
 - SNSを使用した質問箱
 - 授業設計（開発）支援（教員）
 - 教育方法研究支援室によるオンライン授業相談会（ZOOM使用）
 - 2日前のポータル告知にも関わらず40名以上の教員が参加。
 - 学生も不安。教員も不安。話をすれば解決方法は見つかる。



ちなみに・・・私が担当する授業（一部）では

- 未来型学修デザインラボ（帝京大学）

PBLをとおしてそのPBLの学修環境を評価する

- 音声（mp3）+PDF（第1,2週）
- ChatWorkによるチャット（第3週）
- ZOOMによるリアル配信型（第4,5週）
- 対面授業（第6週～）

この週からグループ活動開始

- コンテンツデザイン（明治大学）

インストラクショナルデザインに基づくeラーニングコンテンツの制作

- オンデマンド型授業（第1回～）
- ZOOMによる支援を授業時間に実施（第8回～）



アンケート暫定結果（確度小さいです）

- [資料・課題提示型] 都内の多くの大学が前期は全てオンライン授業とする中で、一部ではありますが対面授業に踏み切ってくれたことに、非常に感謝しています。少しでも多くの時間を大学で過ごせることは幸せなことです。
- [収録動画配信型] ぜひ今後もオンライン授業を今後も続けていただきたいです。

Q. オンライン授業の満足度を、これまでの面接授業と比べて評価して下さい。

[資料・課題提示型] どちらでもない: 1名

面接授業がよい: 1名

[収録動画配信型] 圧倒的にオンライン授業がよい: 2名

オンライン授業がよい: 2名

どちらかという面接授業がよい: 2名



これからのオンライン授業への向き合い方

- 向き合う方を考える上での材料
 - 学生へのオンライン授業に関する調査は現在ちょうど実施中
 - 対面授業が再開する前にという意図もある。
 - 教員にとって何が大変であったの調査結果（ウチはやってません）
 - 高齢の教員も含めて、対面授業再開を喜んだ教員が多かったイメージ
 - マスクをしての語学、フェイスシールドを全員が着用したゼミ。

対面授業の意味とオンライン授業のあり方を考える契機に



これからのオンライン授業への向き合い方

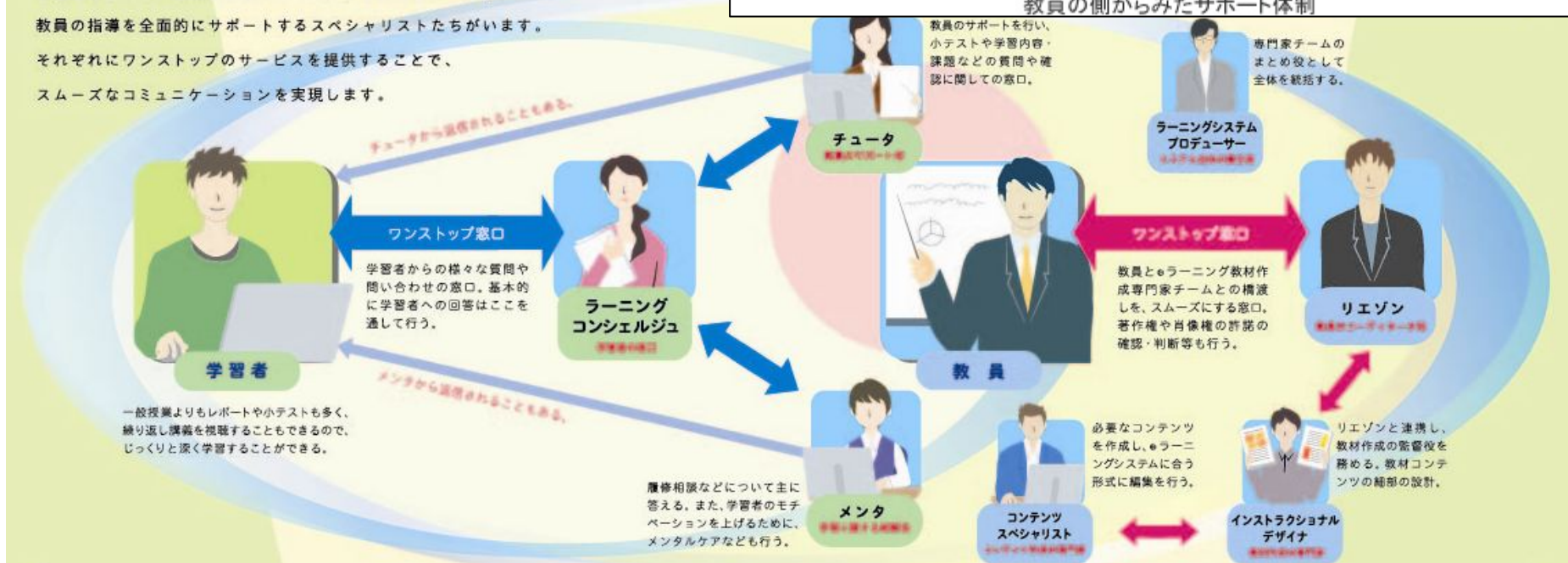
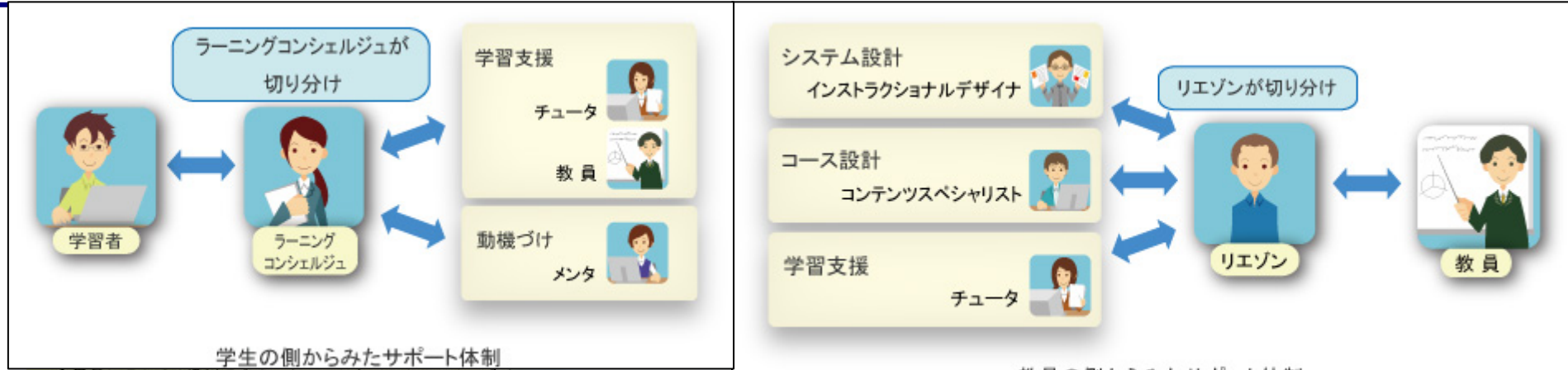
● どこから手をつけるか

- 物理的な学修環境の整備は着実に進める。
- 授業の入口と出口（目標）を踏まえて、適切な方法を選択できるようにする。
 - 研修会
 - 支援部隊の創設

帝京大学八王子キャンパスでは、まもなくワーキンググループを創設し、対面授業とオンライン授業の共存を実現するための課題分析とそれに基づく組織および施設設計を進めていくことになった。



大学eラーニングマネジメント (UeLM) モデル





オンライン授業の手探りロードマップ

最後までお聴きいただき、ありがとうございました。

